

③ 自助共助公助が融合する「大きな社会」の構築

これからは行政ではなく住む人、働く人が街の運営を担ってゆく時代です。人々が自らの生活・仕事のために動き助け合う事が必要です。

その中でコミュニティへの権限委譲と公共サービスの開放で質の高いサービスを素早く提供します。人々が社会でより活動的な役割を担うことを奨励します。

今までのボランティアとしての市民協働とはちがい、市民・NPO などの団体・事業者が担い手となり、予算も権限もある程度持ってやっていただく。これらにより役所の権限は小さくして、公共セクターの改革を行います。

- 街の運営の力は、社会的・道義的責任で、行政による統制ではない
- 個人の生活やコミュニティ改善の為に対話で課題を解決し人々が協力し合う
- 高い意識レベルの個人、専門家、団体および企業の責任が伴う
- 半農半X的生活がモデル

③-1.行政運営

○やり方を再構築する必要がある。

- ・重要な案件は住民投票による意思決定を行なう
- ・市民活動都市として位置付ける→サミット開催により世界と交流
- ・第三セクター又は公社の設立検討⇒作業センター、外郭団体等を移管
- ・SL 理論(状況対応型)のリーダーシップスタイル
- ・「ES 従業員満足度の追及」「CS 顧客満足度の追及」
- ・PDCA から脱却してスピードのある行政運営への転換(リブダオオペレーション)
- ・マーケティング戦略室の創設
- ・各部署の政策を全庁的に推進する部署の創設

③-2.公共施設再編

○総論賛成、各論反対になりがちなので対話での集約が必要。

- ・本庁舎は小規模分散化
- ・各施設複合化検討(自治会館、消防分団小屋、学童施設、分庁舎)
- ・学校・学童施設は早急な延命措置が必要

③-3.防災

○鎌倉の街にとっては目の前に迫った緊急課題です

- ・津波シェルターの普及を考える。
- ・急傾斜地は予算増額をして、危険箇所の判定と助成金の拡充を実施する
- ・危険木の対応は自罰型林業、熱利用等のアウトプットとセットで考える
- ・河道の再整備、浚渫(しゅんせつ)工事がすぐできて効果の高い対策
- ・避難所の環境改善が必要



政策具体策は HP をご覧ください！

130 号 3 期目 31 号(3 月号)

鎌倉市議会議員・長嶋竜弘



富貴を望まず

我人に媚びず

稲村ヶ崎小学校⇒御成中学校
⇒茅ヶ崎高校⇒和光大学
さいかや、東急ハンズ、西友、道の駅などで勤務。自転車整備士
災害復興交流団体鎌倉とどけ隊

メール:kamakurasi@gmail.com
住所〒248-0023 鎌倉市
極楽寺 2-6-10-201 在住

「いざ、鎌倉」かつて日本の中心地であった我が街鎌倉が、日本のモデルになる！

気候非常事態、コロナ禍、AI、ICTの進化、モビリティ革命、人口減少、少子高齢化、これらの状況下で再び産業革命が起こり、我々の生活には大きな変化がやってくる。

もはや行政主導では街は動かない。街で生きていく人が動かす必要がある。

ちょっと前の日本人の暮らしを思い出し、現代版アレンジをする事で道は開ける。

歴史的背景がありポテンシャルが高い街。それを活かした街をつくり、日本のモデルとなる。

👉 その為に今必要な事は？

- ① 利己主義(エゴイズム)から利他主義への転換…利他主義は利己主義より人を幸せにし健康にとって良い効果を持つ
- ② 利権政治からの脱却…論語と算盤 渋沢栄一
- ③ 三方よしの経営哲学…市民、行政職員、事業者
- ④ リーダーシップの変革…支配型から適応型への転換
- ⑤ 対話による街づくり…多世代のダイアログ(対話)で創る

★ 以下 4 期目に向けた、鎌倉草創三本の柱

◆鎌倉草創三本の柱

① のちの営みがある街「ホリスティックタウン」

包括的、全体的に命を考える。全体論(Holism)癒す(heal)健康(health)聖なる(holy)

現代社会はあまりにも「息苦しい」。「自由でホッとできる時間と空間」を持てる街。そして、みんなが健康で安心安全に暮らせる街。子ども達、高齢者、障害者への配慮がある街。個々人は「自分と家族がこの街でどう生きたいか」、自然、歴史、文化と向き合い、地域の中で人と向き合い、仕事と向き合い、子育て、教育、高齢化と向き合い、自らの手で暮らしをつくって行く。海山の自然を活かし、日本特有の四季の気候や鎌倉の住環境・生活環境、来訪者、そして医食同源、適度な運動なども念頭におき、本当の豊かさがある街鎌倉を創造する。

①-1,医食同源

人が生きていく上で一番大事、でも「おざなり」。

2025 年問題、医療介護は担い手が足りなくなる。感染症はコロナで終わりでは無い。今後また発生する。だから根本治療。

①-2,適度な運動

スポーツ振興とは別に日頃の生活の中で習慣として体を動かす事を推奨していく。筋肉には体を動かすための「骨格筋」内臓を作っている「平滑筋」心臓を作っている「心筋」の大きく分けて3種類があり、動かさなくなればなるほど、少しずつ衰えていきます。この筋力の低下の他、呼吸や食などとの総合的な連動を考えていきます。

①-3,心、精神、癒し

自殺、貧困、障害、いじめ、DV、ジェンダー、雇用など現代社会の歪みは大きい。ここへのアプローチは大変難しい。③の大きな社会の構築との連動が必要不可欠である。

①-4,福祉

2025 年問題は労働力不足、社会保障費のバランス崩壊、医療費自己負担額増加が発生する。この事への対応が重要。可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の拡充を進めてまいります。

①-5,子育て・教育

少子化問題は我が国の最も解決しなければならない課題です。もはや国難と言っても過言ではないと思います。地方自治体においてできる事は難しいですが、出産・子育ての環境整備でできる事は予算を投じてやるべきだと考えております。鎌倉がモデル都市として手を上げて、様々な課題で全国で苦労されている自治体の為に国と連携して、日本のモデルを構築する。

②ゆりかごからゆりかごへ「地域型資本主義」への転換

我々人類、特に先進国は産業革命以降、効率化をはかる為に都市に住まいと仕事を集約して来た。しかし、気候非常事態やコロナ禍によりそのやり方が崩壊した。これからは、ある程度の疎開化が進む。これは世界的な流れとなり、AI・ICTの進化とあわせて、産業革命が再び起こる転換期にさしかかっている。

情報通信分野が拡大、第一次産業への回帰、再生可能エネルギーへの転換、大量生産大量消費の終焉で物を大切にすることと質の高さへの転換、移動の短距離化、自由時間の増加が起こってくる。その中で、ちょっと前の日本の暮らしを少し思い出し、現代版アレンジをする。

新しい経済活動、新しい価値の創造をみんなで初めましょう。

②-1,地域の特徴を活かした街づくり

同じ市と言ってもそれぞれ特徴がある。ひとくりにして扱うのは無理があるので再構築。ゾーニングリセットを行うが、中身、地域によってクロスして考える事が重要。全体としては海山の自然を活かし①のホリスティックタウンにつなげるまちづくりが重要。

②-1-1,歴史・文化・芸術にふれあえる街(交流都市ゾーン)

②-1-2,都心に通う現役世代の暮らしやすい街(生活商業ゾーン)

②-1-3,海好きが集まる街(海ゾーン)

②-2,持続可能な鎌倉経済構築

持続可能な自治体財政構築には既存の考え方ではもう追いつかない。エネルギー、交流都市、地産地消、外貨獲得、企業誘致・起業、交通、ごみ処理が柱。

②-2-1,再生可能エネルギー地産地消

②-2-2,観光都市から交流都市へ

②-2-3,地産地消

②-2-4,外貨獲得

②-2-5,本社登記を促す、起業を促す

②-2-6,交通変革の対応

②-2-7,ごみ、景観

②-2-8,財政



政策具体策はHPをご覧ください！

経済政策については、様々な具体的政策提言を多数掲載しています。Webをご覧ください。

今回掲載している「鎌倉草創三本の柱」には具体策が様々ございます。とてもA4で1枚のペーパーでは掲載できる中身ではございません。Webページに掲載しておりますのでご覧いただければ幸いです。